



神医 FAXニュース

第561号

編集・発行 神奈川県医師会

毎月第1・第3水曜日発行

TEL.045-241-7000

FAX.045-241-1464

インターネットホームページ

<http://www.kanagawa.med.or.jp>

初入閣の自見氏、地方の課題に 「全身全霊で」

-内閣改造-

13日の内閣改造で、日本医師連盟の支援を受ける自民党の自見英子参院議員が、地方創生担当相として初入閣した。消費者・食品安全、国際博覧会なども担当する。「地域の声をしっかりと聞くことが私に課せられた使命」だとし、人口減少、少子高齢化といった課題に対して「全身全霊で頑張っていきたい」と述べた。日医連によると、組織内候補の入閣は初めて。自見氏は、所属派閥である志帥会（二階派）の事務所で、官邸からの連絡を待った。前日に、首相から内示の連絡を受けたと明らかにし、「息が止まりそうになった。本当に驚いた」と話した。自身の議員経験はまだ浅いとしつつも、「腹を決めてしっかりと、国家、天下のために身を尽くしていきたい」と決意を示した。電話で呼び込みの連絡を受けると、派閥の同僚議員らの拍手に送られ、官邸に向かった。志帥会の二階俊博会長は「派を挙げて、全ての活動を支援、バックアップできるようにしていきたい」とエールを送った。自見氏は当選2回。2016年の参院選比例代表に、日医連の組織内候補として立候補し、初当選した。19年に厚生労働大臣政務官に就任。新型コロナの集団感染が起きたダイヤモンド・プリンセス号の対応に当たった。22年の参院選で再選後は、内閣府大臣政務官に就き、「こども家庭庁」の発足に関わった。

厚労相の武見氏、14日に会見

厚生労働相に起用された武見敬三参院議員は、「初入閣を厳粛に受け止めたい」との意向から、就任前の取材には応じなかった。議員会館の事務所で呼び込みの連絡を受け、官邸に向かった。14日に厚生労働省に初登庁し、正式に会見を開く予定だ。武見氏は当選5回。父は、元日本医師会長の武見太郎氏。1995年の参院選比例代表に、日医連の組織内候補として立候補し、初当選。2006年には厚労副大臣を務めた。13年の参院選で東京選挙区に転じた後、4選を果たした。世界保健機関（WHO）のユニバーサルヘルスカバレッジ（UHC）親善大使を務めるなど、国際保健分野に精通。党内では「健康・医療情報システム推進合同プロジェクトチーム」の事務局長を務め、医療DX実現に向けた提言作成を主導した。メディファックス9月14日

武見氏・自見氏入閣、 「誠に喜ばしい限り」

-日医・松本会長-

特に、厚生労働相に武見敬三氏、地方創生担当相に自見英子氏が就いたことは、「日医として誠に喜ばしい限り」と歓迎の意を示した。武見氏については、政策通であり、国際政治学者、国際保健のエキスパートとして活躍していると説明。「エビデンスに基づく冷静沈着な分析と、その一方でラガーマンとして

培われた熱血漢としての側面を持ち合わせる希有（けう）な存在と尊敬している」とした。さまざまな経験を生かして、厚労行政で手腕を発揮することに期待を寄せた。自見氏については、「抜てきでの大臣就任は後援会長としても大変うれしい限り」だとし、支援者への謝意も表した。「常に現場での経験に沿った対応姿勢に医療者をはじめ支援者から寄せられる信頼は誠に大きい」としている。メディファックス9月14日

日医会員数、17万5000人突破

-会見で松本会長-

日本医師会の松本吉郎会長は6日の会見で、日医の会員数が8月末時点で17万5000人を突破したと説明した。昨年12月1日から1000人余り増えた。松本会長は今年の会長就任以降、日医の組織強化を最重要課題の一つに掲げた。会見では、会費減免期間を延長したほか、日医役員が全国の医師会、大学、臨床研修指定病院を直接訪問し、入会促進を訴えてきたと強調。6月には常任理事4人を増員し、地域医師会への支援を充実させる中で、さらに組織強化を進める考えを示した。

メディファックス9月7日

神奈川県医師会・神奈川県獣医師会合同One Health講演会 ～人獣共通感染症と、人々の身近に潜む感染症について～

標記の講演会を下記の日程により開催いたしますので、ご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

日時 令和5年10月15日（日）14：00～（16：45終了予定）
場所 神奈川県総合医療会館7階/ZOOMウェビナー 併用
概要 講演：「身近な人獣共通感染症」
講師：日本大学 生物資源科学部 獣医食品衛生学研究室 教授 壁谷 英則 先生
講演：「知っておきたい梅毒診療の知識」
講師：日本性感染症学会 理事長・北海道医師会 常任理事 高橋 聡 先生
講演：「神奈川県医師会における新型コロナウイルス感染症への対応等について」
講師：神奈川県医師会 理事 笹生 正人先生
対象 会員、医療関係者、行政関係者等
申込方法 下記URL（またはQRコード）よりご登録ください。
《令和5年10月10日（火）締切》
URL：https://kanagawa-med.or.jp/medical_treatment/onehealth2023/

QRコード：



事務担当 神奈川県医師会 健康医療課
E-Mail：kenkouiryoku@kanagawa.med.or.jp

最	旬	医	界	
		情	報	

関東大震災から100年、「特設サイト」で災害対策を紹介

—日医—

1日に関東大震災から100年の節目を迎えたことを受け、日本医師会は、特設サイトをホームページに開設した (<https://www.med.or.jp/people/kantou100/>)。神奈川県医師会や東京都医師会、日医が取り組んでいる災害対策を、動画で紹介している。細川秀一常任理事が6日の会見で説明した。日医は7月、「関東大震災発災から100年～未来に生かされるべき教訓～」と題したシンポジウムを開催。その動画も特設サイトで閲覧できる。今月17、18日に横浜市内で開かれる「防災推進国民大会」でも、シンポジウムの一部を放映する予定だ。

メディアファックス9月7日

12人に1人が体外受精児

—21年、最多6万9000人誕生—

2021年に実施された不妊治療の体外受精で誕生した子どもは過去最多の6万9797人で、コロナ禍で調査開始以降初めて減少した前年より9416人増えたとの調査結果を、日本産科婦人科学会が29日公表した。厚生労働省の統計では21年の出生数は81万1604人で、およそ12人に1人が体外受精で生まれた計算になる。1983年に国内初の体外受精児が生まれてから合計で84万人超となった。体外受精は、精子と卵子を体外で受精させて子宮に移植する不妊治療。22年4月から公的医療保険の適用対象となった。学会によると、21年の治療件数は49万8140件。前年より4万8240件増加した。データを取りまとめた東邦大医療センター大森病院の片桐由起子教授（生殖医療）は「21年は不妊治療の費用助成制度の所得制限が撤廃になったことが増加に関係しているのではないかと指摘。「著しい少子化で生まれる数全体が減少していることもあり、不妊治療で生まれる子どもの割合は今後も増えることが予想される」としている。【共同】

メディアファックス8月31日

インボイス制度、事業受託時に注意を

—医師会に呼びかけ—

10月から始まる消費税のインボイス制度に向け、日本医師会の松本吉郎会長は6日の会見で、医師会が健診などの事業を自治体や保険者から受託する場合の取り扱いを説明した。特に医師会による「直接受託」で、実施する医療機関が免税事業者やインボイス未登録の事業者の場合には、「対価の引き下げなどを協議する場合、独占禁止法などに注意が必要」と呼びかけた。医師会による直接受託の場合、自治体などが医師会に支払う委託料は「課税売上」、医師会が医療機関に支払う金額は「課税仕入」となる。医療機関が免税事業者などの場合、原則、仕入額控除ができないため、医師会がインボイス登録を要請したり、対価見直しで協議したりする場合がある。松本会長は、インボイス登録の要請や、対価見直しを行う際に、一方的に取引の打ち切りなどを通告することは、独禁法上問題となる恐れがあると説明。「当初の3年間は8割控除、次の3年間は5割控

除できるなどの経過措置があるため、これを活用するなど、丁寧に協議し、合意を得ることが必要」と述べた。

メディアファックス9月7日

臨床医、子どもたちが疑似体験

—日医、キッズニアに出席—

日本医師会は11日、子どもの職業・社会体験施設「キッズニア東京」（東京都江東区）に、「診療所パビリオン」を出展すると発表した。期間は10月18日～11月7日。子どもたちに「臨床医」の仕事を疑似体験してもらい、かかりつけ医の存在を身近に感じてほしい考えだ。健康への意識の向上も促す。キッズニアの企画・運営を行う「KCJ GROUP」と共同で手がける。パビリオンでは、骨折した患者（医療人形）を相手に、脈拍の確認や聴診器を用いた心音の聴診を行う「診療」と、シーネ（添え木）を当てて包帯を巻くなどの「応急処置」を体験する。パビリオンの定員は各回4人で、所要時間は約35分。対象年齢は3～15歳。期間中は、予防接種に関するクイズラリーなども行う。

メディアファックス9月12日

ゲームで学べる感染対策

—信大病院がスマホアプリ—

信州大医学部付属病院（長野県松本市）の小児科医三代沢幸秀さん（48）が7日、松本市内で記者会見し、感染症対策を学べるゲームを作成したと発表した。スマートフォン向けアプリで、医療を学ぶ学生や医療従事者が対象。同病院の感染制御室が監修しており、現場で役立つ内容という。タイトルは「はじめての感染対策」。大学の保健学科に通う女子学生が主人公で、クイズ形式で病院実習を疑似体験できる。例えば、嘔吐した患者の対応時にガウンやマスク、ゴーグル、手袋を着ける順番などを学ぶ。1時間程度のプレーで概要が身に付けられるよう工夫した。イラストレーターや信州大医学部生の協力を得て、1年以上かけて完成させた。三代沢さんは「バーチャルに体験し、自分で選択することで前向きに感染対策を学ぶことができる」と期待した。ダウンロードは、「グーグルプレイ」か「アップストア」から。無料。【共同】

メディアファックス9月11日

「歯生え薬」実用化目指す

—京大ベンチャー、来夏治験—

歯を生やす「歯生え薬」の実用化に、京都大発のベンチャー「トレジェムバイオフィーマ」(京都市)などのチームが取り組んでいる。2024年7月ごろから健康な成人で薬の安全性などを確かめる臨床試験(治験)を始め、30年ごろの実用化を目指す。チームは「世界初の試み」としている。チームは、歯の成長を抑制するタンパク質「USAG-1」の働きをなくす抗体薬を開発。人には乳歯、永久歯とは別に、新たな歯になり得る「芽」のようなものがあるが、通常は生えずになくなる。薬はこの芽に働きかけ、成長を促す。18年、歯の数が少ないマウスに薬を投与し、歯を生やすことに成功した。人と同様、乳歯と永久歯があるフェレットでは永久歯の内側から新たな歯が生えた。25年からは生まれつき永久歯の数が少ない「先天性無歯症」の2～6歳の子どもを対象とした治験を始める予定。歯の芽の成長を狙い、静脈注射で薬を1度投与する。虫歯などで歯を失った成人の治療も将来的には視野に入れている。同社創業メンバーで北野病院(大阪市)の高橋克歯科口腔外科主任部長は「子どもの場合、歯が生えないと顎の骨の発達などにも影響する。歯生え薬で悩みに応えたい」と話した。【共同】

メディアファックス9月11日